

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	棚倉町教育委員会
研究課題	<p>首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業</p> <p>○ 「幼小中の発達段階に応じたキャリア教育の推進」 （～ 夢をつなぎ、よりよく生きようとする子どもの育成 ～）</p>
研究のねらい	<p>○ 小学校を中心にキャリア教育（基礎的・汎用的能力の育成）のあり方及びその成果を明らかにする。また、キャリア教育と学力向上の関係を考察する。</p> <p>○ 首長部局をはじめ町の商工会等の各組織、各企業等が協働で、学校（子どものたちのキャリア発達）を支援する学社融合（町総がかり支援）のシステムを構築する。</p>
研究の概要	<p>町のテーマ「夢をつなぎ、よりよく生きようとする子どもの育成」を目指して幼稚園や小中学校でキャリア教育（基礎的・汎用的能力の育成）を導入し、小学校を中心に学校経営から学校行事や授業までの全ての教育活動をキャリア発達支援の視点から見直しそのあり方を研究するとともにその成果を明らかにする。更には、基礎的・汎用的能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）と学力向上の相関関係を考察した。</p> <p>また、棚倉町キャリア教育推進事業「コネクトドリーム（夢をつなぐ）プラン」の一環として教育委員会が事務局となり、町長部局、福島大学、労働関係の白河産業サポート等でキャリア教育推進委員会を結成し、町内外の企業・事業所等（昨年は町内48社等と町外1社、今年度は町内66社等、町外1社等）の協力のもと、「チャレキッズ in 棚倉（小学5・6年生の職場体験）」を夏休休業中の1週間程度実施した。子ども達は全員参加のキャリア講演会（町外1社が協力）、その他子ども達は3社（今年度は66社等協力）程度選択して各社に赴き、「ひと・もの・社会」との出会いを体験し、授業では学べない多くのものを学んだ。そして、「チャレキッズ in 棚倉（職場体験）」を実践することにより、“子どもたち一人ひとり”の夢を育むための、小学生のキャリア発達を支援する学社融合（町総がかり支援）を組織化することができた。</p>
研究の成果	<p>◎学校の取り組みでは、キャリア教育（基礎的・汎用的能力の育成）の実践は子どもの学習への意欲化、保護者の信頼、教師の授業等の指導改善を図ることができるといったことが分かった。</p> <p>基礎的・汎用的能力が高くなると学力も向上するなど、基礎的・汎用的能力と学力の相関関係も分かってきた。</p> <p>◎ 首長部局等との協働では、子ども達が地元の職業を体験し理解を深めることで将来の後継者育成にもつながると期待がよせられ、町を知り町に愛着を持つための社会体験の場であり、中学校、高校での職場体験（3日間）を通して系統的に学べることが将来の進路選択等に大きな力を発揮すると考える。本事業は各学校が取り組んでいる「コネクトドリーム」プランを支援することを目的としているが、その結果として首町部局や町商工会、町企業等がキャリア発達を支援するシステムが構築されてきた。これらの実践が、子ども達の学習意欲の向上につながり、学力の向上にも成果を上げてきている。2年目を迎えた小学生夏季社会体験学習「チャレキッズ in 棚倉」は7月31日から8日間実施され、町内5小学校の全5・6年生296名が参加した。</p> <p>○ キャリア教育講演会（8月4日棚倉小学校） 本田技研工業の協力を頂き「ASIMO 特別授業」を開催した。「学校にASIMO がやってくる！」と題し”夢を育む“授業に登場した人気ロボットASIMOに歓声が上がり、児童の瞳はキラキラと輝いていた。</p> <p>○ 職場体験学習（7月31日（金）～8月7日（金）66ヶ所） この期間の体験者は延べ648人、1人平均2.2回（最大3回まで）になる。</p>



受入れ事業所は初年度の48社から66社に増え、児童・事業所ともに期待の高まりが参加率にも現れている。

◇児童が事業所宛に書いた礼状から（一部抜粋）

- ① 体温を測るなど人と信頼し合わないできません。こんなに人と関わり触れ合う仕事はないと思った。〔福祉の現場を体験しよう〕
- ② 棚倉町の工場で作られた製品を知って自分の町を誇りに思った。町の役に立つ仕事がしたい。〔鉄を削ってみよう〕
- ③ ドロドロに融けた鉄の中で働く人はすごく熱い。お父さん達を見て頑張っていると思った。〔鉄を溶かしているんなものを作っている工場〕

◇下の写真左は、〔モデル体験をしてみよう〕プロのモデルから化粧、歩き方等の指導を受けた、青年会議所主催のガールズコレクションから。写真右は、〔お寿司ができるまで〕早朝の郡山卸売市場でマグロ解体、仕入れから仕込み、握りまで指導を受けた福寿司から。



○児童、保護者、学校、事業所へのアンケート結果から（一部抜粋）

◇5・6年生児童【296人】

①地域や町の良さを感
じた⇒89%

①地域や町の良さを感
じること【児童】

■できた ■少しできた ■あまりできなかった ■できなかった



②働くうえで勉強する
ことが必要だ
⇒98%

②働くうえで勉強する
こと【児童】

■とても必要 ■少し必要 ■あまり必要ない ■必要ない

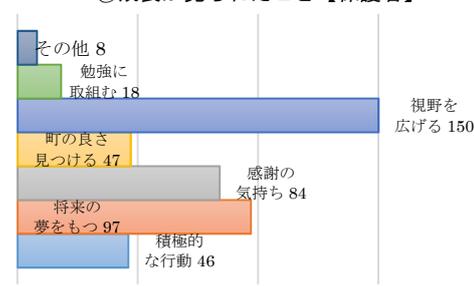


◇保護者【254人】

③児童に成長が見られたこと
（複数回答）

視野を広げる ⇒150
将来の夢を持つ ⇒97
感謝の気持ちを持つ⇒84

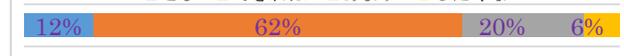
③成長が見られたこと【保護者】



④親子一緒に参加を希望
する ⇒74%

④親子一緒に参加を希望する
か【保護者】

■ぜひ ■できれば ■あまり ■したくない

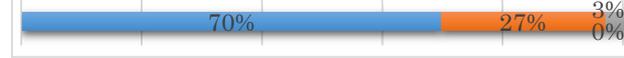


◇協力事業所【66社】

⑤地域の産業に理解を深
めることに有効だ
⇒97%

⑤地域の産業に理解を深める
こと【協力事業所66】

■とても有効 ■少し有効 ■あまり有効でない ■有効でない



◇5年生児童

⑥来年も参加したい
⇒98%以上

⑥来年も参加したいか【5年生児童142人】

■ぜひしたい ■少ししたい ■あまりしたくない ■したくない



○協力事業所意見交換会（2月5日）児童を受入れた事業所の声から

◇工務店〔住宅の模型作りに挑戦〕

住宅の模型づくりを親子参加型で体験してもらった。始めは不安そうだったがだんだん笑顔が見られ、一生懸命の姿を見て私が感動をもらった。準備は大変だったが苦労が吹き飛ぶくらい子供たちから学んだ。

本件

※福島県 棚倉町教育委員会 生涯学習課

問い合わせ先

TEL:0247-33-0111 FAX: 0247-33-9611 E-mail: syougaiakusyuu@town.tanagura.fukushima.jp

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

<p>教育委員会名</p>	<p>見附市教育委員会</p>
<p>研究課題</p>	<p>首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業</p>
<p>研究のねらい</p>	<p>①学校と地域コミュニティ組織が連携を図り、地域課題となっている伝統文化行事の継承、防災ボランティアの育成についての研究。 ②地域コミュニティが学校運営協議会に参画し、より広い地域住民の知恵と力を「熟議」と「協働」を基盤とした学校マネジメントの情報発信についての研究。</p>
<p>研究の概要</p>	<p>①中学校区合同学校運営協議会の開催、協議会委員に地域コミュニティ関係者、行政関係者が委員として参画し、学校活動への連携強化を図った。 ②地域広報紙「つながる今町」、「みつけコミュニティ・スクール通信」の発行やHP等での啓発と情報共有を行った。 ③学校運営協議会の地域コミュニティ役員の参画し地域課題等の共有と解決策の検討を行った。 ④地域住民の支援による児童生徒の伝統文化活動、防災訓練に中学生が避難誘導ボランティアとして参加した。 上記の①～④の各活動に首長部局（住民協働、防災等）と地域と連携して学校教育活動への支援にあたった。</p>
<p>研究の成果</p>	<p>【地域住民が教育に積極的に参画し、情報提供、教育の場の担い手に】</p> <p>①地域コミュニティ、行政関係者が委員として参画し、学校活動への連携強化が図ることができた。学校運営協議会に役員（19人中8人）が参加し、情報共有の為にイベントカレンダーを地域寄付により発行。</p> <p>②地域広報紙「つながる今町」（H27年度12回発行）及び「みつけコミュニティ・スクール通信」（H27年度10回発行）を月1回程度の頻度で発行し、他HP等での啓発と情報共有が図ることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>中学校区小中合同学校運営協議会</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地域主催：JAXA 科学講演会で宇宙を学ぶ</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 20px;"> <div style="width: 30%;">  <p>『台町』周知！ H27年度10回発行 市内全児童・生徒の家庭に配布。 市教委HPに掲載。</p> </div> <div style="width: 30%;">  <p>地域コミュニティが月1回発行 今町中学校区の世帯に配布。 世帯数：2,933 人口：8,837人 市HPに掲載。</p> </div> </div>

【中学生が積極的に地域の大人に学び、次の担い手と育つ教育環境】

③地域住民の支援による児童生徒の伝統文化活動や防災活動への参加など多様な人材が学校教育活動への支援の仕組みづくりにつながった。



県無形文化財「大凧合戦」



市内で唯一伝承されている「白丁」

総合的な学習等で生徒は伝統文化を学び、担い手として自覚を持ちました。



防災部局と連携して開催した市防災訓練

6/14に今町中学校をメイン会場に防災訓練を開催。各生徒は学校の他、居住地域の自主防災組織にボランティアとして参加。

H27年度：全市で938人（H26：868人）の中学生がボランティアとして居住地域等の防災訓練に参加し活躍しています。参加率83%（H26：76%）

検証値：

①教育活動を支援した地域ボランティアの数

小学校4,938人、中学校1,936人（目標値：小学校4,404人、中学校：1,644人）

②積極的に人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合

小学校58.3%、中学校50.9%（目標値：小学校57.1%、中学校38.4%）

本件
問い合わせ先

見附市教育委員会学校教育課 TEL:0258-62-1700(内線431) FAX:0258-63-5003
e-mail: gakkyou@city.mitsuke.niigata.jp

※MSゴシック、11Pで作成してください。

本概要版は研究成果物（研究報告書）の概略版として、HPに掲載する予定です。

A4 2枚以内で図や表、写真などを入れわかりやすくご記入ください。

「首長部局等との協働による新たな学校モデルの構築事業」まとめ【概略版】

教育委員会名	諏訪市教育委員会
研究課題	「児童福祉施設の活用による児童の心と体の健康増進モデルの構築」
研究のねらい	<p>◆ 施設概要と研究のねらい</p> <p>諏訪市立蓼科保養学園は、市域外となる茅野市の蓼科高原に所在し、かつては虚弱児施設として運営されていたが、現在は諏訪市(首長部局)が設置する市単独の児童福祉施設である。学園では年間を4期に分け、各期には市内小学5年生児童40名(定員)が入園し、学習指導要領に基づく学習を受けながら、概ね70日間、親元を離れ仲間と寝食を共にする長期寄宿生活を体験する。</p> <p>高原の豊かな自然をフィールドに展開する寄宿体験は、伝統ある日課表に基づく規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはんの実践、正しい食生活と適度な運動習慣)環境をつくることで、健康な生活リズムを体得する(取り戻す)礎となる。また、日常とは違う環境下で、児童は多様な直接的な体験を重ねながら、自主・自律の心を養い、仲間と深い関係を築いていく力を磨き、将来にわたり必要となる社会生活力や問題を解決していく力などをきわめて実践的に身につけている。</p> <p>本研究では、蓼科保養学園の運営理念や生活・健康指導の実績に、新たな教育的取り組みを付加することによって、他に例を見ない教育施設としての活動を強化することをねらいとした。</p>
研究の概要	<p>◆ 研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 環境の優位性や施設の特性を最大限生かしながら、新学習指導要領が定める「生きる力」、特に「心身の健康と自立心・たくましさと確かな学力」を育むための新しい教育・体験学習プログラムを研究し、試行的に導入する。 ● 児童が体験したさまざまな活動実践から、児童自身が気づいたことや考えたことなどの「学び」を、学校や家庭などにフィードバックすることで、学園生活で得た成果が共有できる仕組みづくりを進める。 <p>◆ 新しい教育・体験プログラムの試行的導入・評価</p> <p>1. <u>ものづくり体験や郷土を知る学習、食育教育</u></p> <p>～八ヶ岳の麓に広がる縄文文化遺産～</p> <p>『尖石考古館見学・土鈴づくり体験』(7月・2期生)</p> <p>□ 八ヶ岳山麓に繁栄した縄文時代の出土品などをみて・ふれる体験を通じて郷土の歴史や文化を学ぶ。/土鈴づくり(ものづくり)体験を通じて、先史時代の生活に思いを馳せながら、楽しい創作・制作活動を行う。</p> <p>～諏訪の名産品「みそ」について学んでみよう～</p> <p>『たてしなのみそづくり体験』(11月・3期生)</p> <p>□ 歴史と伝統があり、全国生産量の1割を占める信州上諏訪の味噌づくり体験を通じて、郷土の名産品について学ぶ。/仕込み体験、発酵・熟成のための環境観察を通じて、食や食材に対する興味・関心を高める。</p> <p>～たてしなのみそ×地場野菜×和食料理長～</p> <p>『たてしなのみそで食育・料理教室』(2月・4期生)</p>



<p>研究の概要</p>	<p>□ 手作り味噌や地場野菜を使った料理教室に取り組み、食や食材への関心を高める。/和食料理人から、日本食の特長や、料理の工夫、心づかいについて学ぶ体験を通じて、健康の基本となる自身の食生活について振り返る。</p> <p>2. スポーツ活動を中心とする体験教室、講座</p> <p>□ 学園が従来から取り組む運動プログラムに加えて、専門の指導者からトレーニング効果などを教わりながら、さまざまな競技や体育運動に挑戦する体験を通じて、「多様な動きを身につけ、体を動かすことの楽しさや爽快感をからだで覚える」ことを統一的なテーマに、社会教育関係団体とも連携して各種スポーツ教室・講座（サッカー教室/スキー、スケート教室/陸上（ランニング）教室）を企画・開催する。</p> <p>◆ 学園生活や新プログラムで得られた成果を共有する仕組みづくり</p> <p>1. 家庭へ情報発信、友だちへ伝えるためのツールづくり</p> <p>□ 家庭と共有（在園児童が学園生活で考えたことや心の変化などを伝える） ・「たてしな通信」の編集・定期発行</p> <p>□ 学校並びに市内小学校児童と共有（児童が学んだことを自ら表現する） ・「蓼科保養学園に行ってきました」（たてしな通信児童版）の発行 ・実践発表会（手作りみその配布と体験学習報告）</p> <p>2. 退園児童実態調査</p> <p>□ 学園の現状を知るための調査 ・退園児童アンケート ・ 担任教諭への聞き取り</p>
<p>研究の成果</p>	<p>◆ 研究事業の（中間）評価・考察</p> <p>● みそづくり体験やスポーツ活動は、学園が日常的に取り組む「望ましい食生活習慣」や「適度な運動習慣」を身につけるための生活指導をフォローし、児童が自発的にその意味を考え生活態度を振り返る機会となった。体験学習を終えた児童からは、楽しかったという感想にあわせて、直接教わったり感じとったりしたことをこれからの生活に生かそうとする意欲が見受けられた。</p> <p>● とりわけ「みそづくり」は、事前学習やその後の観察を大切にすることで、単発的なイベントではなく、教材として食育教室につなげることができたため、学習効果も高かった。また、手作りみそは、観察記録と一緒に在籍小学校に配り、給食調味料として使用した。みそづくりを体験して退園した3期生がその時の様子を全校児童に向けて紹介したとの報告を複数受けている。</p> <p>● アンケート標本が少なく、分析にはしばらく調査を続ける必要はあるが、学園生活を「よい経験であった」考える者が90%を超えた。また、「退園後も意識したり、気をつけていることはあるか」の問い（自由回答）に、友だち関係を記載する者が多く、これは学園での寄宿体験が深く影響していると思われる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>縄文土鈴づくり体験</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>蓼科みそづくり体験</p> </div> </div>
<p>本件 問い合わせ先</p>	<p>諏訪市教育委員会 教育総務課 TEL0266-52-4141（内線 460）FAX0266-57-0660 E-mail kyoiku@city.suwa.lg.jp</p>